

[005]九州人類学会報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2231584>

出版情報 : 九州人類学会報. 5, 1977-12-15. Kyushu Anthropological Association
バージョン :
権利関係 :

九州人類学研究会昭和51年度例会一覽

昭和51年

第一回例会 4月24日

〔研究発表〕 高濱靖英氏（九州大） 歯と食生活

〔8ミリ紹介〕 杉山龍丸氏（国際文化福祉協会）

オーストラリアの旅行

第二回例会 総会記念講演 6月19日

近沢敬一氏（福岡大） 日本人の自殺の特色

田村圓澄氏（九州大） 根の国

第三回例会 10月30日

〔研究発表〕 木原範恭氏（近畿大）

The New English Bibleの翻訳に見られる矛盾構造について ～最近の聖書翻訳論争から～

柳沢義幸氏（柳沢病院）

インダス文化を中心として～特にヘレニズムについて～

（スライド使用）

第四回例会 12月18日

〔研究発表〕 <アメリカ調査特集>

江淵一公氏（福岡教育大）

ポーランド系アメリカ人の民族性について

～コネチカット州ニューブリテン市の「ポロニア」の調査から～

綾部恒雄氏（九州大）

アメリカ・マサチューセッツ州のユダヤ人コミュニティ

～民族性の研究～

〔スライド紹介〕 名和敏子氏（九州大） カナダ・アメリカの旅から

昭和52年

第五回例会 2月19日

〔研究発表〕 波平恵美子氏（佐賀大）

象徴的分析の客観性ないしは説得性について

内藤莞爾氏（九州大）

五島の分牌式家族慣行

〔スライド紹介〕 徳山怜子氏（福岡女学院短大）

ロングハウスの暮らし～サラワクの旅から～

〔 研究例会について ― 報告とお願い 〕

昭和51年度の研究例会は、上記のように、計5回にわたり、9名の会員による研究発表と3名の会員によるスライド・8ミリ紹介が行なわれた。出席者の数は、月によって多少の変動があるが、平均すれば30名前後で、例会会場に拝借している九大法学部研究会室が毎回ほぼ満員の状況であった。

次年度も、例会は年5-6回開催し、毎回研究発表2名およびスライド・8ミリ紹介1名の計3名という原則で行なわれることになっている(526.25.総会承認)。スライド紹介は、昨年度から行なっている新しい試みである。海外調査や国内調査を行なった会員による、簡単ではあるが、もっとも up-to-date な報告を聞く、というのがその趣旨である。

研究会は、文化人類学を中心としつつも、学際的・総合科学的アプローチの基本姿勢から、社会学・宗教学・民族学・言語学・法社会学・考古学・歴史学・心理学・形質(自然)人類学等の隣接諸科学の各分野にもひろくわたるように配慮しながら、発表をお願いしているが、会員各位からの積極的な発表申し出をとくにお願いしたい。また、会員以外でも、発表をお願いできそうな適当な方があれば、事務局・研究例会担当までお知らせいただきたいと思います。

(研究例会担当・江淵一公)